

大腿骨寛骨臼インピンジメントを含む股関節疾患の多施設疫学調査
(前向き観察研究)
医学情報の研究利用について

2003年に大腿骨寛骨臼インピンジメント(衝突の意味)(FAI)という概念が海外で初めて報告されました。大腿骨頭あるいは寛骨臼の骨形態異常により、股関節の運動に伴って大腿骨頭と寛骨臼縁との衝突が繰り返し起こるという概念です。股関節の痛みおよび変形性股関節症の一因として注目されており、わが国では2015年に日本股関節学会から初めてのFAI診断指針が提案されました。この研究は、患者さんの診療歴・画像を用いて新たな診断指針に則った疫学調査を全国の多施設で行い、股関節疾患をもつ患者さんにおけるFAIの頻度、疫学的な特徴、身体所見、画像所見の特徴を明らかにして未来の診断・治療に役立てることを目的としています。当科は共同研究機関としてこの研究に参加しています。

対象：股関節に関連する愁訴を主訴に外来を初回受診した15歳以上の患者さん

研究参加者に協力いただく具体的な内容：

通常の診療情報、撮影画像を研究に活用します。この研究に参加されることで、通常の診療行為に加えて新たな検体を採取することや、問診・診察が加わることはありません。受診頻度も通常の患者さんと同じです。予定参加期間は、FAIと診断された患者さん、FAIの基準を一部満たす患者さんは初診時から最長5年間で、約1年後、3年後、5年後の転帰調査(その後の経過)を行う予定です。それ以外の患者さんは診断確定時までです。また、データの管理に関しては個人情報保護法に準じて行い、データ上すべての患者さんは匿名化され、お名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ないのでご安心ください。このデータは厳重に管理され、また医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがありますが、上記目的以外に使用されることはありません。また、今回の調査対象にあたる方で調査への参加に同意されない方はお申し出ください。もし研究参加を拒否されても、今後の治療などで不利益を受けることはありません。しかしながら全てのデータの解析が終了後に、不参加の意思表示がなされても、参加の取り消しが不可能な場合もあることをご了承ください。この件につきまして、ご質問などがございましたら、施設内研究責任者にご遠慮なくお尋ねください。

研究期間： 研究承認日から 2024年3月31日

主管機関名及び研究責任者：東京医科歯科大学附属病院リハビリテーション部 神野哲也

共同研究機関：機関の名称及び当該機関の研究責任者の氏名

京都府立医科大学大学院運動器機能再生外科学	久保 俊一
神奈川リハビリテーション病院	杉山 肇
広島大学医学部人工関節・生体材料学寄附講座	山崎 琢磨
北里大学医学部整形外科	福島 健介
新潟大学医学部整形外科	遠藤 直人
奈良県立医科大学人工関節・骨軟骨再生医学	川手 健次
大阪大学大学院運動器医工学治療学寄附講座	菅野 伸彦

三重大学医学部整形外科学教室	須藤 啓広
山形大学医学部整形外科学教室	高木 理彰
宮崎大学医学部整形外科	帖佐 悦男
広島県立障害者リハビリテーションセンター	安永 裕司
藤田保健衛生大学整形外科	山田 治基
東京医科大学整形外科	山本 謙吾
金沢医科大学整形外科	兼氏 歩
旭川医科大学整形外科	伊藤 浩
横浜市立大学医学部整形外科	稲葉 裕
川崎医科大学 骨・関節整形外科学	三谷 茂
九州大学医学研究院整形外科学	中島 康晴
福岡大学医学部整形外科学	山本 卓明
東京慈恵会医科大学整形外科学	藤井 英紀
愛媛大学地域医療再生学講座	間島 直彦
産業医科大学若松病院整形外科	内田 宗志
東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科	比江島 欣慎

施設内研究責任者：北里大学病院整形外科 ふくしま 福島 けんすけ 健介

電話 042-778-8111（北里大学病院代表）